

た。今後はより一層、町民目線に立った行政運営を心掛けます。

問 ワンテーブルに対して、町として何か対応をするのですか。

答 顧問弁護士と相談しながら、対応を検討します。

問 当事者意識が足りないのでは。町長として、どのような責任を取るつもりですか。

答 今回の件について、町民の皆さまにご心配をおかけしたことに深くお詫び申し上げます。当事者として、町長としてこの件についてしっかりと対応した後、自分自身で判断していくこととします。

問 今の官民共創コンソーシアムについては、今後どうするのですか。

答 いったん白紙に戻します。

問 今後の官民連携のあり方について、どのように考えているのですか。

答 官民連携事業は、今後のまちづくりを進めるうえで必要なことと考えています。ただし、再び同じことが起こらないように、今よりも一層、相手方の調査を徹底して見極めることとします。

小学校には普通学級に在籍していても、何らかの支援を必要とする児童が30人ほどいます。このため、今年度から通級学級を開設し、児童一人ひとりに寄り添った支援に取り組んでいます。

問 現在クラス数も減って、空き教室もあると思います。まずは、その空き教室を使って小中学校を統合することはできないのですか。

答 福島県は少人数の学級編成をしています。国見小学校でも県の方針に基づいて学級編成をしていて、全ての学年で2学級となっています。以前と比較すれば学級数は減少していますが、一方で特別支援学級が増えていて、今年度からは通級学級も新設したため、空き教室はない状況です。

問 資料で挙げられている課題は、施設を何か所にするだけで解決するものではないと思います。

答 施設を何か所にするだけで、すべてが解決するとは思っていません。教育課程や学校行事などの工夫、家庭や地域の協力など、学校・保護者・地域が一体となることで、一貫教育の効果がより現れるものと考えています。



くみに学園基本構想

問 くみに学園構想はワンテーブルからの提案だったのですか。

答 ワンテーブルからの提案ではありません。

問 くみに学園基本構想に民間企業は関係していたのですか。

答 全国の最新事例や、未来の学校に向けた研究などの紹介を受けたりするため、ワンテーブルが事務局を担う国見町官民共創コンソーシアムに参画する3社4名に地域活性化起業者として委嘱をしました。なお、任期は終了しており、今年度の委嘱はありません。

問 パブリックコメントの期間が短く、応募できませんでした。再度、意見を募集する機会はあるのでしょうか。

答 期間が短かったとの意見をいただいています。今後も皆さんと意見交換する場を設けていきたいと考えています。また、パブリックコメントは再度行う予定です。

問 一か所にすることでメリットばかりではなく、デメリットもあるのではないですか。

答 義務教育学校とすることで「小学校の卒業式」や「中学校の入学式」などがなくなることは、デメリットの一つと考えられますが、先進の義務教育学校では、「立志式」や「2分の1成人式」などの行事に取り組むことで解消していきます。今後は、メリットだけでなくデメリットも提示し、広く議論意見の集約を図っていきます。

問 箱ものを作る前に、給食費無償化などの手厚い支援をしてください。

答 町では、他自治体に先駆けて給食費の無償化や奨学金支援も行っています。くみに学園基本構想はこれらの政策の一つです。

問 ワンテーブルは策定委員会の委員だったのですか。

答 ワンテーブルは委員でもありませんし、事務局でもありません。

問 策定委員会の議事録にワンテーブルの名前があるのですが、どうしてですか。

答 ワンテーブルは、策定委員会に傍聴者として参加していた地域活性化起業者の活動記録や連絡調整のためだけに同席していました。

問 学校運営に民間企業を関与させるべきではないと思います。

答 ワンテーブルの関与をイメージされているの質問だと思いますが、町は学校運営を民間企業に委託しようとは考えていません。

問 くみに学園の整備費用が数十億円と報道されていますが、財源はどうするのですか。また、企業版ふるさと納税は活用しないのですか。

答 場所や整備の方法も決まっていないので、町は整備費用を示していません。今後、整備費用を積算する際には、国庫補助金や過疎債などの財源を検討します。なお、企業版ふるさと納税制度自体は悪いとは思いませんが、その活用は慎重に判断したいと考えています。

問 国見町にとって非常に大きな事業なので、拙速に進めるのではなく、インシヤルコスト（建設費用）、ランニングコスト（維持管理費用）の比較も含めて検討してください。

答 教育を考える上では、丁寧に進めていきたいと考えています。建設費用などについては、調査を実施していきます。

説明会では次のような意見も寄せられました

■ 保護者同士で話をすると、反対する人もいますが、概ね賛成の意見が多いです。財源の問題は本当に大切で、慎重に検討すべきだと思いますが、施設の老朽化も進んでいるので、子どもには良い環境で学び育ってほしいです。

■ 国見町の教育は遅れていると言われました。以前は小学校と幼稚園が隣り合い、連携ができていました。くみに学園ができれば、この町で子育てをしようと思う人も増え、くみに学園で学び、育った子どもたちが、良い町だと戻ってくる流れができると思います。

問 くみに学園整備費が50億円と聞きましたが、本当ですか。

答 基本構想の段階では、場所も整備の方法も、仮設校舎の有無も決定していないので、費用は示していません。ワンテーブル島田代表取締役の音声データがインターネット上で公開されていて、「50億円」と発言しているようですが、町が検討している基本構想に乗じて、一企業の社長として発言したものと考えています。

問 令和6年8月に建設工事が始まるという聞き込みですが、本当ですか。

答 基本構想の策定に入る令和4年9月の段階で、事業の概ねのスケジュールを想定する必要があったことから、令和6年8月着工と策定委員会の資料に記載していました。しかし、基本構想の策定を丁寧に進めていきますので、来年から着工するようなことはありません。

問 特別支援学級や不登校の児童生徒が増加傾向にあるとの説明がありました。他市町村と比較するのでしょうか。

答 他市町村も同様に増加傾向にありますが、国見町が特に多いということではありません。なお、国見町

【次ページへ続く】

■ 子育て世代としては、くみに学園構想を応援したいです。既存施設を大切に使うとしても、今後、相応なコストはかかってくると思います。地域全体で子どもを育む環境を、地域住民や議会、みんなで作ってほしいです。

■ 理念は理解しますが、人口減少・少子化の時代に、大きな施設を新たに作る必要はないと思います。

■ 国見町は過疎指定を受けた町です。学園構想を実現しようとするば、財政的な問題が大きい。今後が見通せない中で、急いでやることではないと思います。

■ 以前の統廃合で廃校となった校舎は、十分に活用されているとは思えません。施設を集約化するならば、使わなくなった施設や跡地の利用についても、しっかりと検討してほしいです。

■ 人口減少に伴い、コンパクト化が求められている中で、未来を見据えた構想だと理解しています。

■ 町・議会・町民に分断があると、若い人たちはそれを嫌うと思います。